



共同通信



2008年3月15日 139(349号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.koudou.jp/> 振替 01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 39 『一年生のぴかぴかの一年間』

3月は卒業・卒園の季節です。この春、卒園を迎える園児のみなさん、底抜けにおめでとうございます(すみません、毎朝『ちりとてちん』見ているもので)。

我が家の一人息子も今年の今頃、幼稚園を卒園し、4月には小学校に入学...もうじき1年生も終わりです。幼稚園に入る時にも心配しましたが、小学校はより一層心配で入学前からクヨクヨと胃を痛めていた心配性の母です。

思えば、幼稚園時代は泥団子を作ったこともなく、縄跳びを一生懸命にするわけでもなく、だったら絵本が好きかというと全くそんなこともなく、遊びと言えば氷オニや家族ごっこばかり

していた様子でした。みんなと同じことをするのが嫌なのかな? 集団行動が苦手なのか? だったら小学校生活はどうなる? みんなと仲良くできるのかなあ? いじめられたら親としてどう対処したらいいの?

入学式の当日、クラス編成の用紙を見て「誰も知っている子がいない! 僕はひとりぼっちだ!」と半泣きの顔で教室に入って行った息子(実際は、同じ幼稚園から女の子が2人クラスにいたんですが...)でも、入学式が始まって6年生に手をひかれて体育館に入ってきたときの顔はニコニコで、大きな口を開けて歌を歌ったり、知らないはずの隣の子と楽しそうにしゃべったりしていました。

放課後のお約束を1学期の間は1度もしてこなかったり、近所の子と一緒に帰るように指導をされているはずなのに一人で帰ってきたり...この子は変わり者で一匹狼だからなぁと思ったりしましたが、2学期が終わる頃には気の合うお友だちが何人かできて、家から離れた公園で待ち合わせをして遊んだりするようになりました。実は息子は囲碁が大好きなんです(担任の先生いわく、なぜ囲碁みたいなディープな世界に入っちゃったのか...だそうです)。このディープな囲碁に付き合ってくれる友だちがなんと2人もできました。素晴らしすぎます。

何をするにも消極的で、おとなしくて...と思っていたら、音楽会では自分から立候補してオルガンの担当になり、家には楽譜を一度も持ち帰って練習していなかったのに何故か弾けるようになって、本番では周りをキョロキョロと眺める余裕さえ見せての演奏。とても立派でした。音楽が彼の自信分野になったのだと思います。

3学期の授業参観では、クラスの中で自分の立ち位置を自分で決めて振る舞っているように見えました。1年間で、自分の居場所をちゃんと見つけたようです。子どもの成長は凄いです。1年前の私の心配はいったい何だったのでしょうか。

子どもを新しい環境に送り出すとき、とても心配だけど、私は息子の背中をポンと押してあげるだけで大丈夫みたいです。それが分かったということは、私もこの1年間で少しだけ成長したのかもかもしれません。

(梅垣 尚子)

日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を読む会	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮公同教会集会室

何かを説く「思想」なのではない！
思索にとつ必要なお方を体現しているから
「思想」なのである。

(小林秀雄の恵み橋本治)

イエスは自分の働きや、その意味について、自分から積極的に語るということは、ほとんどありません。期待されたり問いかけられたりすれば、避けずに答えはします。しかしその答え方は徹底して“受け身”に見えます。イエスの弟子であるゼベダイの子ヤコブとヨハネの“お願い”は、「栄光をお受けになったとき、ひとりをおあなたの右に、ひとりをおあなたの左にするようにしてください」というものでした(マルコによる福音書10章35節)。この時のヤコブやヨハネの理解していた“イエスの栄光”は、たぶんこの世で実現する地位や役割であったかも知れません。イエスの答えは「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていない。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」(10章38節)というものでした。2人は「できます」と答えます。“杯を飲む”“受けるバプテスマを受ける”が、どんな事態であるかにはほとんど思いが至りませんでした。このことは、イエス自身にとっても完全に予測できていなかったに違いありません。例えば、「また多くの人があがないとして、自分の命を与える」(1

0章5節)と言っていたイエスは「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください」(14章35節)と言いなおします。“杯を飲む”“受けるバプテスマを受ける”などのことは、何かの象徴ではなく、ペテロが「・・・一緒に死ななければならなくなっても」と“決意”を語ることにもなる、何かのつぴきらない事態として進展するらしいのです。

“飲む杯を飲み”“受けるバプテスマ受ける”“仕える人となり”“僕となる”などのこととして示される態度は一見すると“受け身”です。しかし、ただ受け身であるようには思えません。起こっている出来事を、不可避なこととして受けとめようとしているという意味で積極的に受け身なのです。その場合、何が起こって、何が不可避にそこには立ち現れていたのだろうか。例えば「仕える人となれ」「僕とならねばならない」となる人の有り様を説く時、それとは全く別の側にいる人、人の有り様として示されるのが「異邦人の支配者と見られる人々は、その民を治め、また偉い人たちは、その民

の上に権力をふるっている」です(10章42節)。だからと言って、“支配者”に真向かいから立ち向かっていくのではなく、支配者にはあり得ない、“仕える人とならねばならない”“僕とならねばならない”が人の立ち位置として示されます。支配者に直接挑むのではなく、全く逆の立ち位置でその生きる生き様を示すことを求めます。真向かいから立ち向かわれるのは面倒でしょうが、それはそれでねじ伏せやすくはあります。しかし、そうはしないで、そこに存在し、生きた態度としての“仕える”“僕となる”という別の目障りになる生き方を示します。それも、誇示するのではなく、自分が生きて引き受けたことが、結果として目障りになる位置に立ってしまったという具合にです。たとえば「かしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない」は、“かしら”であることを積極的に破棄して、“僕”を生きることに於いて積極的であることを求めます。そんな生き方を自分でも引き受けていて、引き受けることを求めるのですが、その生き方はそのまま“権力をふるっているもの”への批判にならざるを得ませんでした。その結果「・・・多くの人のあがないとして、自分の命を与える」ことになったとしても、それが引き寄せるようにして起こったとしても、あり得ることでした。

そのようにしてイエスの身に起こったことを、後の教会の人たちは“受難”と

してキリスト教会の行事の一つに組み込んできました。しかし、“僕となること”で“仕えること”において積極的に受け身であって、結果イエスの身に起こってしまったことが、ただ受け身の受難であるはずはありません。それを“受難”と言ってしまうとすれば、“受難”に身をさらすことをしないで、そのように出来事との距離を取ってなされる、キリスト教会の受難の定義は、不誠実であるのかもしれない。

(菅澤 邦明)

第8回にしきた寄席

日時：3月16日(日)午後5時～7時

場所：西宮共同教会チャペルホール

入場料：前売2000円、当日2500円

連絡先：にしきたアートガレージ

0798-67-4691

主催：にしきた街舞台実行委員会

後援：西北活性化連絡協議会

親 子 酒	狸 の 化 寺	二 人 ぐ せ	月 並 丁 稚	〓 演 目
桂 雀 三 郎	桂 出 丸	林 家 染 左	桂 吉 坊	

『自然の恵み』

2月末に園庭で全クラスでの集まりがありました。幼稚園ですくすく大きく育っている“はっさく”の収穫があったからです。毎年、はっさくの数数を数えて食べることを知っている年長さんや年少さんは「このはっさくいつ食べるん？」と聞きにくる子がいました。実際、いつ食べるか分からなかったので「もうちょっと、大きくなるまで待っててな」と答え、自然と何個も落ちてくるはっさくに早く食べたいと、心底思っていました。

いよいよ、順子先生から声が掛かり子ども一人ひとりにはっさくを獲ってわたしていきました。園児数が192名。その日は数名の休みがあったので集まりがあった日は約180名の子どもがいました。それでもまだはっさくの木にはなんと約100個もまだ残っていました。手入れをしていたわけでもなく自然にこんなにも大きく、こんなにもたくさんの実ができることに改めて自然の大きさを肌で感じる事ができました。

収穫の後はクラスに分かれて、お味見タイムとなりました。集まってすぐに食べるといかないのが共同幼稚園。集まってからは少し先生の話の聞いたり、クイズをしたりと今から食べる“はっさく”について勉強をします。

「さて、問題です。皮を剥かずに中身の数を知るにはどうすればいいでしょう？」という問題を子どもたちに出しているクラスがありました。「えっ？それは少し難しくないかい？」と思っていたのですが子どもたちからは「ハイ！ハイ！ハイ！ハイ！」と勢いよく手が挙がり、「ヘタの数と中身の数は一緒」と答えていました。「よく分かったなあ」と思いましたが、『みかん』（中島睦子・作 こうやすすむ・監修 福音館書店）の絵本を見ただけでなくしっかりと覚えていることに感心しました。一クラス5～6個はっさくを食べたのですが、まだまだまだ食べ足らなかったようです。

畑ではイチゴやサツマイモ、タマネギにジャガイモなどたくさんの恵みを得ています。畑だけでなく幼稚園の中にもこんなにも素晴らしい恵みがあることを覚え（公同まつりでも販売されたオリーブも忘れてはいけません）感謝の気持ちを持ち続けていきたいと思えます。

（馬場田 悠作）

アコークロー通信 (119)

この通信の「アコークロー」は、沖縄の明るくて暗く、暗くて明るい、例えば夜の海で月明かりが煌煌としているさまをいうのです。まるで沖縄のように光と闇が交錯している、そんなイメージで10年間続けてきました。そう、ボクが沖縄に来てちょうど10年が経つのです。ボクが沖縄に来ることを決意したのは、1995年、1月に兵庫県南部地震があり、3月にオウムノサリン事件があり、9月に沖縄で少女暴行事件があり、人間一人の存在と「国家」の大きさや力との差を感じ、兵庫の次は沖縄に行かなければならないと思ったからです。実際に沖縄に赴任したのは1998年4月です。沖縄は、何をしても沖縄戦と米軍基地が課題になります。ボクはこの10年間沖縄で社会福祉の仕事をしてきて、特に沖縄の「家族」と向き合ってきました。小学生の子供がいるとして親は35歳くらい、ちょうど沖縄が本土復帰した1972年前後の生まれ。そのまた親の世代は1940年前後の生まれ、沖縄戦の真っ只中。沖縄戦は四人に一人が死んだ戦争で、その時代に生まれ育ったのは文字通り奇跡なのです。沖縄で、もし家族論をやるとしたら、そのあたりは直接かかわらなくても前提になるのです。

米兵にかかわる事件や事故が重なり、沖縄に住む人々の根底には怒りがマグマのようにドロドロとなっています。戦後63年、いや、沖縄戦から居座る米軍基地がある限り沖縄は戦後ではなく、戦闘後の占領期間がまだ続いている感じです。現実には日本の法律よりも米軍が優先していることを沖縄に人々は実感しているのです。ですから沖縄の闘いは先鋭化せざるをえないところがあります。けれども、闘いはそう単純ではありません。日本国中で最も「貧しい県」である沖縄での生活は容易ではありません。大学卒の就職率はよくて6割、潜在的失業率は3割余です。所得は東京の半分、全国平均の7割。その大学卒の給料は、非常勤で月13万円ならいいほうです。ボクが仕事をしてきた「児童養護施設」で非常勤職員は13万円、中学校卒業して名古屋に就職した女の子は17万円と笑うに笑えません。そこで、毎日こぶしを振り上げて闘う人々は限られてしまうのです。本土から大勢の人々が闘いに参加しに来ます。でも、沖縄の生活も見てください。戦後63年、沖縄から米軍基地はなくならず、かえって新たに作られようとさえしています。一朝一夕になくなるとは思っていません。長い闘

いを強いられています。その長い時間に付き合えるなら、どうぞ一緒に時を過ごしてください。えっ？帰らなければならない？本土に？

沖縄で生まれ育って、長い間本土で生活し、沖縄に戻ってきた人が、突然、沖縄を離れました。心も体もすっかり疲れてしまったそうです。沖縄は癒しの島だ、というのは違います。とっても息苦しく疲れてしまうところでもあるのです。そう、人間が活着ているのですから。そして歴史も社会も独自の歩みをしている沖縄ですから。でも、人間が活着ているが故に、そして海や空の青さに癒されることもあるのです。ボクは本土から来た人間として、いつまで沖縄にいるかわかりません。けれども、沖縄の人々と出会いながら果すべき役割を果したいと願っています。

そんな沖縄ですが、今後ともよろしく。

会話は別れの始めですが、あらたな出会いも待っています。

年度替り、みなさんご健康で。

(沖縄・与那原・愛の園 後藤 聡)

聖書研究祈祷会

毎月第1、第3水曜日午後7時から、場所は西宮共同教会集会室です。4月は2日、16日になります。

聖書はキリスト教の神のことを、人の言葉で語ってみようとした試みです。

そんな試みで残された聖書の言葉は、当然あれこれ難解だったり、神の前に立つことを拒む人というものに呆れ返ったり、生々しかったりしますが、“神の前に立つ一人として謙虚に生きる”ことと、その意味を、言葉を尽くして語ろうとします。じっくりと腰をすえて聖書を読むのが、西宮共同教会の聖書研究祈祷会です。

大切な贈り物・津門川 67

『津門川掃除に参加して』

春には色とりどりの鯉が泳ぎ、7月には笹が涼し気にゆれ、そして冬には美しいイルミネーションに彩られる津門川・・・もう何年も前になりますが、鮎の泳ぐ川として、探偵ナイトスクープで取り上げられていたのも思い出します(その頃は、実際、こんな都会の川に鮎がいるなんて信じられなかったのですが)。

我が子が縁あって、津門川沿いの共同幼稚園にお世話になる事になり、初めて、この川の美しさが街の人々によって守られてきたものだ、という事を知りました。

と言っても、私達が川掃除に参加し始めたのはごく最近のことです。日曜の午後、今日は何も予定が入っていないなあ・・・という時に、たまたま誘われたので参加する事になりました。子ども達の目的は、掃除というより友達と遊びながら移動したり、スタンプを貯める事の方にあるような気がしますが、それでも楽しそうについて来る姿を見ていて、自分の子どもの頃の事を思い出しました。

私は田舎で育ったので、水田にスムーズに水を引くために、年に2度程ではありますが、村総出で川掃除がありました。私の家は農家ではあり

ませんでした。いつも母は参加していて、私もついて行くことがありました。時々、カエルやヘビが出てきたりして怖いのですが、それでも川の周りで遊ぶのが楽しかったように思います。津門川のような大きな川でなく、溝のようなものでしたが、朝早くからお昼近くまでかかって、何kmかの距離を掃除していたと思います。でも、現在の津門川掃除と大きく違うことは、掃除するのはほとんどが藻で、川の流れを良くするための掃除だったように思うのです。もしかすると、当日の手間を省く為に、前日に自分の家の周りくらいは、って掃除していたせいかもしれません。でも、住人が自分の住んでいる所の川をきれいにしようと思っている心には、通じるものがあると思います。今でも母は毎回川掃除に参加しています。川も整備されて、本当に「溝」のようになってしまいましたが、掃除は楽になったようです。私としてはもっと「川」のままであって欲しかったのですが・・・。

津門川の話に戻りますが、掃除していると本当にゴミの多さに驚きます。駅が近く通行する人の多さを考えると、多少のゴミが飛んでくるの

は分からないでもないのですが、これってゴミ? っていうような物（例えば自転車とか）があるのには正直参ってしまいます。このゴミを見ながら育った我が子がどのような大人に成長するのかわかりませんが、こ

うやって掃除に参加したことを覚えておいて欲しいな、と思います。そしてこの津門川のように四季折々美しい姿を見せる川がもっと増えたらいいな・・・と期待しています。

（伊丹 暁子）

グアテマラだより

こんにちは。
グアテマラに来て、早一ヶ月が経ちました。

まず、よく尋ねられるのが「それはどこ？」なので、簡単に説明させていただくと、アメリカから、メキシコ、その次がグアテマラです。昨年末にも神戸市立博物館で「マヤ・インカ・アステカ展」がありましたが、その「マヤ文明」が栄えた地域にあたります。

今、私が住んでいるのはアンティグアという、グアテマラの古都で、世界遺産にも登録されています。「マヤだから」ではなく、こちらはスペイン統治時代のコロニアル建築様式が多く残っている、日本でいうと京都のような感じでしょうか。。

そして、ここには多くの火山があり、何度かの地震によって街が崩壊しました。そのため、首都機能が移りました。今なお、崩壊したままの修道院や教会が、「廃墟」という遺跡として残っています。「世界遺産」ということで、町並みの色（黄色や赤茶など）にも規制があり、ビルなんてもちろんありません。道も石畳で、小さな町を一步出たとたんにアスファルトになります。

そして、スペインから「カトリック」という宗教が持ち込まれました。今も多くの方がそうである、、、のだと

10 思います。でも、少し田舎の方に行く

と「福音教会」の布教が盛んで、しかもものすごい音量で音楽をかけ続けているのです。それはハワイアンっぽかったり歌謡曲っぽかったり、統一性も感じられないのですが・・・一度、その結婚式に呼んでもらったときは、ずっとマイクで歌い続けていて、かなり驚きでした。金銭援助などもあり、郊外の先住民が多い地域などでは、徐々に信者が増えているとも聞きます。

（横山 佳代子）

ゆっくりと聖書を読んでみませんか
毎月第1火曜日午前10時から、場所は西宮共同教会集会室、参加費100円です。4月は8日に行なわれます。

「ゆっくりと聖書を読んでみませんか」では、毎回、コーヒーとお菓子を楽しみながら、のんびりした時間の中でお話を聞きます。ただ聖書の話を中心に聞くのではなく、絵本、音楽、雑学などを豊富に交えた内容は、“聖書”から決して遠くないところで身近な話題を皆さんと共に、貴重な時間なのかも知れません。参加者たちの驚きの声、笑い声に子どもたちのさわぐ声に加わった、賑やかで心温まる時間です。

2007年3月 あんなこと こんなこと...

- ・ 3月 1日(土) 午前6時30分～、早天祈祷会
- ・ 3月 3日(月)～4日(火) 教団教育部研修会
- ・ 3月 5日(水) 卒園登山
- ・ 3月 6日(木) 午後4時～、教会学校教師会
- ・ 3月 8日(土) 金澤秀明・井上恭子結婚式
- ・ 3月 11日(火) 第17回ゆっくりと聖書を読んでみませんか
- ・ 3月 17日(月) 幼稚園卒園式
- ・ 3月 20日(木) 午前10時～、教会と子どもセミナー 2008
- ・ 3月 21日(金) 幼稚園3学期終了式
- ・ 3月 23日(日) 午前9時～、教会学校入学式
午前10時30分～、イースター礼拝
- ・ 3月 26日(水) 教会学校新入生歓迎六甲登山(予)
- ・ 3月 30日(日) 午前9時～、教会学校入学記念パーティ
- ・ 4月 1日(火)～2日(水) 教会学校淡路島ワークキャンプ

にしきた商店街...

- ・ 3月 2日(日) 津門川川掃除
- ・ 3月 8日(土) 西北活性化連絡協議会
- ・ 3月 9日(日) 学生等提案事業(関西学院大学)
- ・ 3月 12日(水) 商店街役員会
- ・ 3月 14日(金) 西北街づくり協議会
- ・ 3月 16日(日) にしきた寄席
- ・ 3月 18日(火) にしきた街舞台実行委員会
- ・ 3月 19日(水) 阪急高架化についての話し合い
- ・ **3月 30日(日) 西北街づくりフォーラム『西北子育て支援』**

アートガレーヂ

- ・ 毎週土曜日 15時～17時開室日
- ・ 2月 28日(木)～3月 3日(月) 年長組作品展
- ・ 3月 4日、18日(火) 丹波野菜市
- ・ 3月 6日(木) アートガレーヂ運営委員会
- ・ 3月 27日(木) 岡理恵といっしょに手仕事をしよう会(予)

関西神学塾

- ・ 3月 7日(金) 午後7時～9時 講師 桑原重夫 使徒行伝を読んでみよう(31)
- ・ 3月 14日(金) 午後7時～9時 講師 勝村弘也 ヨブ記釈義(7)
- ・ 3月 28日(金) 午後7時～9時 講師 田川建三 マルコ福音書註解(中)(47)
- ・ 4月 4日(金) 午後7時～9時 講師 桑原重夫 使徒行伝を読んでみよう(32)
- ・ 4月 11日(金) 午後7時～9時 講師 勝村弘也 ヨブ記釈義(8)
- ・ 4月 18日(金) 午後7時～9時 講師 田川建三 マルコ福音書註解(中)(48)

教会学校から

《2月の活動報告》

2月3日(日)

輪投げ大会&おもちを食べる!

2月10日(日)

ゲーム遊び

ルーレット、ネズミ、ジェンガ、
トユッティフルーティで遊ぶ

2月17日(日)

幼稚園の子どもと積み木で遊ぶ

2月24日(日)

ふるしき大会

《3月の活動予定》

3月2日(日)

ケチャで遊ぶ

はっさく狩り&マーマレードを食べる

3月9日(日)

巨大ドッチビー大会

3月16日(日)

積み木で遊ぼう!

3月20日(木)

教会と子どもセミナー

3月23日(日)

イースター礼拝&
教会学校入学式

3月30日(日)

入学歓迎パーティ

まいのなんでも案内

だいぶん寒さも和らぎ暮らしやすくなってきました。私は、バイト先の閉店（色々あったんです）のせいもあり、完璧に墮落した春休みを過ごしています。何とか留年も真逃れたし！来年めっちゃ頑張らなきゃいけないことに変わりはないわけですが……。まあそんなわけで最近下宿と実家を行ったり来たりする日々です。そしてそうなる利用頻度が増えるのが阪急電車。わたくし昔から乗り物という乗り物に弱く、車やバスは勿論、電車でさえ乗りながら細かい字を見ると酔う、という超乗り物酔い体質なので、京都（河原町）から十三までの40分は、寝こけるかひたすらボーっとするか、という二択です。そんなわけで先日もボケーと吊り広告を眺めていた（きちんと文字を読むと酔うので、文字通り眺めるだけ）のですが、中に一つ、衝撃的なものを発見しました。世の中の鉄道ブーム、キャラクターブームのせいでしょうか、これまでも阪急電車が様々なツッコミどころ満載のグッズを発売していることは知っていたんです。あたしもすっかり「9ちゃん（9000系）タオルハンカチ」とか、ソフトビニールマスコットとか買っては家に置いています。というのは私が鉄子（女性鉄道オタク）だからではなく、兄が幼少から大の鉄道好きで、何となく親しみがあるからなのです。で、ちょっと前にとうとう絵本にまで手を出したのも知ってて（『きゅうた

くんデビューの日』という、9000系キャラのお話）阪急大丈夫かな、と思ってたんです。でもどうやら売れ行きが良かったらしく、シリーズ2冊目を発行されました。その名も『とっきゅうでんしゃ ろみおくん』。

あたし本気で見間違いだと思いましたよ最初。「ろみお」で。阪急電車が「ろみお」って。どこの貴族の坊ちゃん気取りだよ！「ああロミオ、あなたは どうしてロミオなの」てか！で、いやもうこれネタやろーと思って、その広告を兄に本文ナシで写メったらですね、数分後に返信が来まして。「分かった。これ6300系でろみおだよ」って。……………本当だ。よく見たら表紙の電車、6350で描いてある！！あのね、送った写メってね、本当表紙の絵のピンボケ画像だけなんです。本の説明とか全く送ってないんですよ。でも確かにそうだったんですよ。電車の簡略イラストだけで何系か分かる兄ってすごい、と思いました。更にその話を母親にしたら、その絵本の実物（500円）を買ってきてくださいまして、もう本当うちの家族って素敵だなあとか思っちゃったんですが、まあそれはいいや。

で、ろみおくん。ストーリーとしては至って単純。特急電車として花形だった「ろみおくん」が、新車両「きゅうみちゃん」の登場に焼きもちを焼きますが、先輩車両たちのアドバイスもあり、車両は

新しかろうが古かろうが、遅かろうが速かろうが、みんな、同じ気持ちでお客さんを乗せて走ってるんだ！ということに気づく、という話。ホームページの説明によると「今回は京都線の特急車両6300系をモデルにしたキャラクター『ろみおくん』を中心に物語が進みます。この他、9300系をモデルにした『きゅうみちゃん』や100形(P-6)をモデルにした『ひやくおうじいさん』、2300系をモデルにした『ふたすけさん』などのいろいろなキャラクターも登場します。絵本の内容は、『ろみおくん』の心の成長を描いたもので、お子様にも分かり易いストーリーでありながら、読んでいる大人もホロリと涙を浮かべてしまう作品に仕上げました。」という、これだけで何回っこめばいいんだ、と感じなんですけど、とりあえずあたしは涙は浮かべなかつたです(笑)。あ、でも、いい話ではありますし、妙にマニアックなので、電車好きの子どもには是非すすめたいところです。そして6300系は京都線の特急で、いつも個人的にお世話になってる電車なので、次回から乗る度に「あろみおくん、君も大変なんだね・・・」とか余計なことを思ってしまいそうです。でも兄情報によると、なんだか5歳児ぐらいの感覚で描かれているろみおくん、実はもう30年以上走っているとか。・・・電車の年齢感覚は、どうも人間とは違うようです。

(高橋 舞)

つとがわ 編集後記

円高、株価下落、原油だか、日銀総裁が決まらなかったりと、大騒ぎで深刻なのだそうです。そうですが、一人一人が生きるのに食べられる量は限られているし、そんなにあっちこっち移動できそうにないし、生活するのにそんなに広い場所も必要ないし、もしその程度でも生きられるとしたら、円高、株価下落、原油高などのことで、そんなに大騒ぎをすることはないように思えます。

幼稚園では66人の子どもたちが卒業します。何ができたということではありませんが、人として言葉が届き合うことを願い、一緒に生活し、言葉が届く人としての一步を踏み出すことを後押しできたらと願っています。

(K)

待ち遠しかった春がもうすぐそこまできています。子どもたちと“春さがし”に行ったりしています！

先日は武庫川の河川敷に菜の花を見に行ってきました。暖かい日差しの中、満開の菜の花のまわりで思いきり遊ぶ子どもたち。ゆっくりと流れるその時間がとても愛おしく感じました。私の好きな沈丁花もふんわり香っていて～・・・幸せな気分になりました

(N)

先日子どもたちと武庫川へ行ってきました。きれいに咲いた菜の花に春の訪れ

を感じました。

まだまだ寒い日があったり暖かくなったり～ですが、一駅歩きたくなるような大好きな春がやってくるのが楽しみです。

(Y)

ずいぶん暖かくなって春がやってきました。暖かくなるのが待ち遠しかったはずなのに、やっぱりこの時期はさみさみで胸がいっぱいになります。ゆっくり過ぎて欲しいと思うときほど時間は早く過ぎていきます。

暖かな春がみんなの心を暖かくしてくれますように・・・。そんな毎日を送っていきますように・・・。

(I)

“アコークロー”は10年をふり返っておられますが、私は最近過ぎたこの“20年”を思うことが多いです。オギャアってこの世に誕生した赤ちゃんが成人するそれが20年。私はその3巡目の最終周に突入しました。

17日、うまれてたったの6年、やっと6年、もう6歳そんな子どもたち66人を送り出します。この66人が20歳を迎えるころは～・・・、そして又今からの“20年”は～・・・。

(J)